

イラク後送業務隊の活動報告



18. 7. 31
イラク後送業務隊

B.L.OのP等
22(4)名
32(3)名
E 22(4)名

イラク後送業務隊活動報告 (7月31日)

1. 人員・装備の状況

○ 人員・装備：異状なし

2. 31日(月曜日)の活動

	区 分	業 務 内 容
後送業務	コンテナ作成	6個コンテナ作成 (車両×1、通電×1、需品×2、施設×2)
	洗 車	11両後送準備終了 (LAV×1、業務車4号×1、燃料タンク車×1、高機動車×4、人員輸送車2号×1、野外炊事トレーラ×2、野外入浴セット×1)
	本邦後送	○コンテナ船によるコンテナ70本(実20、空50)の後送 (コンテナ船故障ドック入りのため8月2日出航に変更)
	その他	○本邦後送車両65両の車両点検(8月11日本邦後送予定)
	その他	○キャンプバージニア施設撤収業務 役務業者によるコンテナ(3本)の輸送 ○隊朝礼 安全教育「車両事故防止」 ○別紙第1「RSU活動状況(7月31日)」

KWからの装備品等の後送状況把握（全体像）

コンテナ

KWから本邦へ後送するコンテナ総数【581本】			
コンテナ詰め数【220本】		空数【361本】	
終了【125本】	今後実施【95本】		
後送済【56本】		後送済【0本】	

別紙

車両

KWから本邦へ後送する車両総数【230両】	
洗車終了【126両】	今後実施【104両】
後送済【27両】	

3 後送業務の進捗状況

7月31日末現在

区分	計画		実績 (c)	進捗度		残数	備考
	総数 (a)	当該日迄 (b)		総数比 (c/a)	計画比 (c/b)		
コンテナ	開梱 (コンテナ数)	337	296 [57]	87.2%	99.3%	161 20	
	コンテナ詰め (点数)	99,451	36,723 [17,935]	36.8%	99.7%	62,849	
	後送 (点数)		7,412 [0]	7.5%	100%	92,039	
車両	洗浄	230	106 [0]	46.3%	125%	104	
	後送		27 [0]	11.3%	100%	203	

※ 点数については、弾薬を除いた点数
【 】内は当日の実績で内数

4. 1日(火曜日)の活動予定

区分		業務内容
後送業務	コンテナ作成	3個コンテナ作成 (通電×2、施設×1)
	洗車	3両後送準備完了 (LAV×1、通信修理車用発電機トレーラ×1、野外医療トレーラ×1)
	本邦後送	○コンテナ船によるコンテナ70本(実20、空50)の後送 (コンテナ船故障ドック入りのため8月2日出航に変更)
	その他	○10次群長から補統への物品の異動に伴う証書の作成
その他	○ファルアニア倉庫整理(10次群に対する追送品の整理)	

5. 週間後送計画及び実績

区分	7/29	7/30	7/31	8/1	8/2	8/3	8/4
	土	日	月	火	水	木	金
コンテナ作成	車両×2 通電×1 火器×1 施設×1 化学×1	車両×2 通信×1 需品×3	車両×1 通信×1 需品×2 施設×2	通信×1 →2 衛生×1 需品×1 施設×1	車両×3 通信×1 需品×2	車両×3 通信×3	0
	車両×2 通電×1 火器×1 施設×1 化学×1	車両×2 通信×1 需品×3	車両×1 通信×1 需品×2 施設×2				
洗車	6	6	6	2→3	6	6	0
	6	6	11				
後送	コンテナ		70 20	日付変更へ	28 (7/29, 20/7)		
	トレーラ						
	車両						

※下段には実績を記入

6. 日々ミーティング

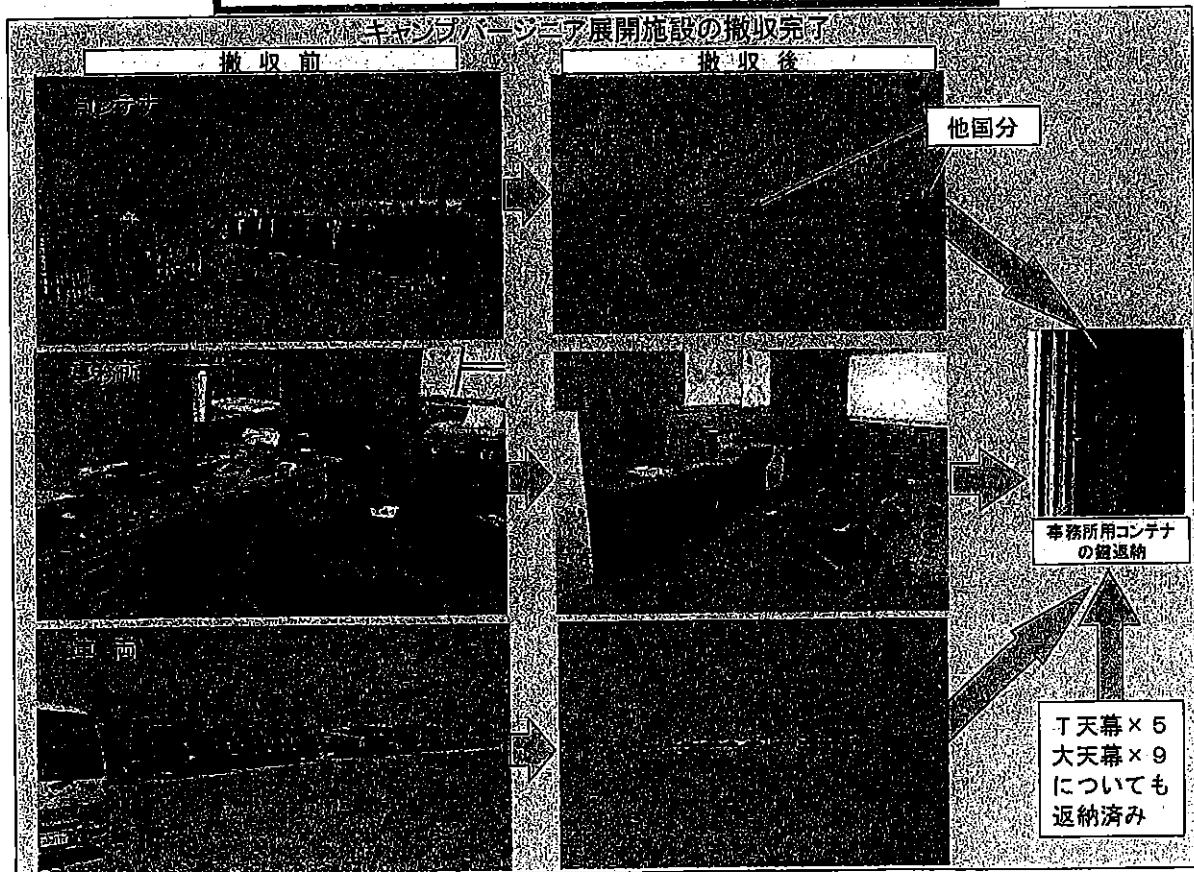
○ 治安情勢:別紙第2「クウェートの治安状況等(7月31日)」

○ RSU長指導事項

ー 1ヶ月が過ぎ、時期的に折り返し地点に近づいた。今後大事なことは、最後までこの任務を事故もなく成し遂げることである。疲れやメンタル面のストレスなど、これまでの蓄積がピークに達していると思うが、陸曹会の活用など各種施策により和らげる工夫が必要であるとともに、各人が目標を持つことが大切である。最後までそれぞれが知恵を出しながら任務達成に邁進せよ。

RSU活動状況 (7月31日)

別紙第1



アメリカ大使館前での反米デモ

【趣旨】

「レバノンでの状況に対して、在クウェート米大使館前で反米デモの記事がアラブタイムス（7.30付）に掲載されたところ、その記事の内容の骨子を紹介するもの

【記事内容骨子】

- 1 デモの主張等:付紙「アメリカ大使館での反米デモ」参照
- 2 デモ参加者の行動
 - (1) 付紙の他、米国旗を燃やしたり、米国大使の追放を要求
 - (2) 携行物
 - 「レバノン南部の村クーナで50人以上の市民が死亡したのは“ナチの大量虐殺と同じだ”と書いたプラカード
 - ヒズボラの旗や2人の指導者、ヒズボラの指導者Hassan Nasrallah及びイスラエル攻撃の戦士の写真
- 3 クウェート政府関係者(クウェート議会広報官Jassem)の反応

もしアメリカは政策を転換しなければ、中東においてアラブの支持国を失う危険性がある。
「イスラエルはすべての限界を超えた。そして、その同盟国米国は、アラブやイスラムの世界の支持を失う危険性及び立場を再考しなければならない。」

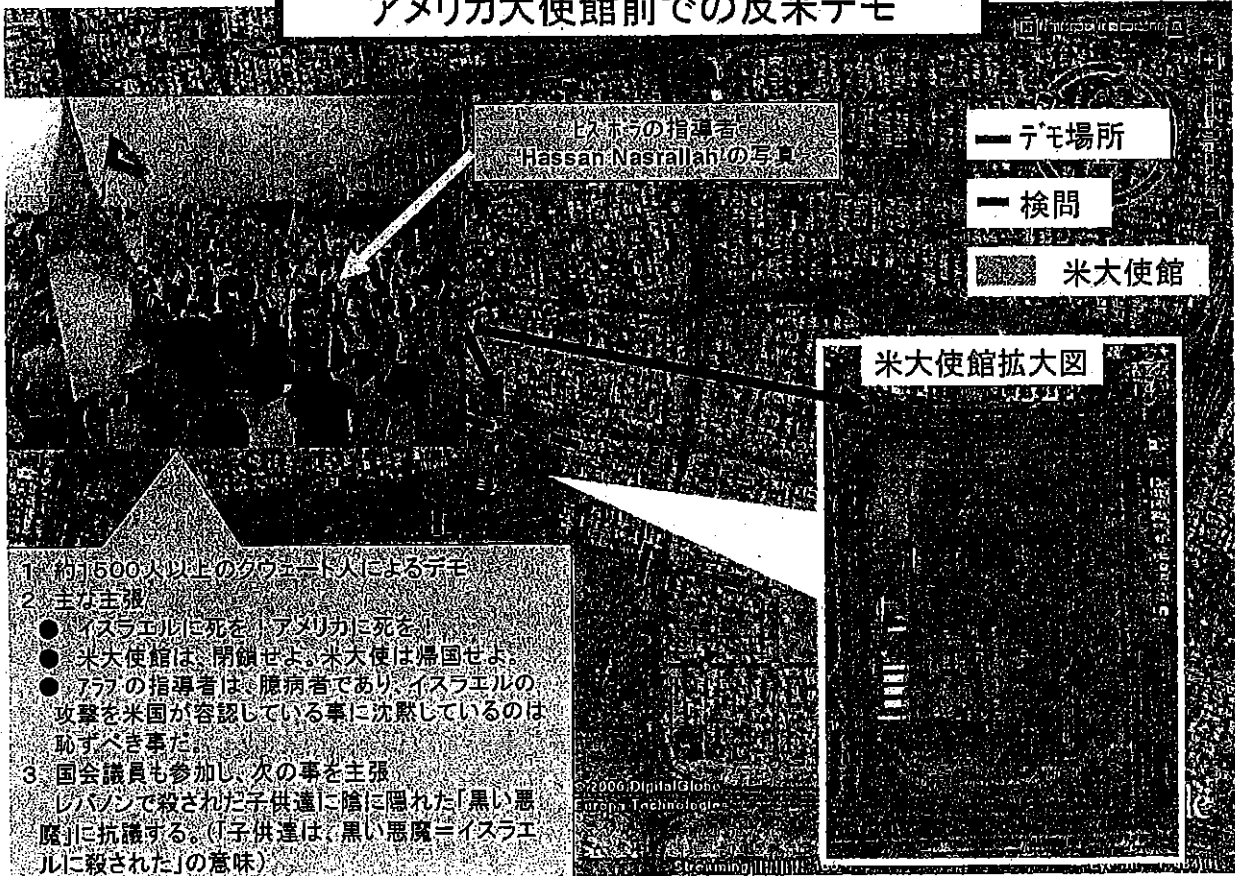
【米大使館の反応】

警備員による大使館に通じる道路封鎖のみ

【評価】

- 1 イスラエルによるレバノン攻撃後、アメリカ大使館前での2回目のデモあるが、1991年米国主導の多国籍軍がクウェートからイラク軍を駆逐してからは、希少な事象
- 2 一般クウェート人と国会議員による合同デモは、レバノン情勢に関するクウェートの反応が確実に悪化し手来ていると言える事象（7/20付日々報告内容）、今後更にレバノン情勢に停戦の進展が見えなければ、米軍基地周辺或いは欧米人の立ち入るモール等でもデモ等の発生が予想され、米軍基地等立ち入りの際は、更に警戒する必要がある。

アメリカ大使館前での反米デモ



— デモ場所

— 検問

■ 米大使館

米大使館拡大図

ヒズボラの指導者 Hassan Nasrallah の写真

1. 約1500人以上のクウェート人によるデモ
 2. 主な主張
 ● イスラエルに死を、アメリカに死を
 ● 米大使館は、閉鎖せよ、米大使は帰国せよ
 ● アラブの指導者は、臆病者であり、イスラエルの攻撃を米国が容認している事に沈黙しているのは恥すべき事だ。
 3. 国会議員も参加し、次の事を主張
 「レバノンで殺された子供達に陰に隠れた「黒い悪魔」に抗議する。（子供達は「黒い悪魔＝イスラエルに殺された」の意味）」